
空腹しか残らなかった男

少年K

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空腹しか残らなかった男

【Nコード】

N6303P

【作者名】

少年K

【あらすじ】

墮落した元大食いチャンピオン。

私には、元大食いチャンピオンの友人があつて、
数ヶ月前、彼の住むアパートを訪ねた。

連絡を取らなくなって長かったが

アパートの前を通りかかると急に懐かしさがこみ上げ、

思い出を頭の中に浮かべ終わる頃には自分の手が

彼の部屋番号の書かれたドアを叩いていた。

ドアの隙間から覗きこむようにして私を見た彼は

記憶の中にある彼の姿とは変わり果てていた。

かつては「イケメン大食い王」として各種メディアに取り上げられ、

追っかけの女性ファンさえもいた彼の顔は

皮膚がまるでしぼんだ風船のように垂れ下がり、

肌は荒れ、顔をにきびで赤く浮かせていた。

落ち窪んで深い隈のある目が

伸びすぎた前髪の間から疑い深く私を捕らえたとき、

私は思わず後ずさった。

ドアの隙間から覗く体は妊婦のように腹が膨れ上がっている。

まるで形相が以前と違うが、確かに彼だった。

かける言葉を見つげられず立ち尽くしていると、

荒れた唇が動き、入れよ、と喉の奥から染み出すような声を出した。

部屋の様子も以前とはまるで異なっていた。

かつては洒落た生活用品が並び、

いつも彼の好きなロック音楽が

大きなスピーカーから聞こえていた部屋は、

春であるのに、どこか寒さを感じるほど殺風景だった。

床の上は、白色で統一した家具の代わりに

大量の弁当の空き箱が散乱していた。

部屋の奥に薄汚れた布団が張り付いている。

「みんな売ってしまったんだ」

プラスチックの容器と割り箸を押しつけて座り、

彼はことの顛末を口の端を歪めて語り始めた。

テレビの仕事が次々と入り、有頂天になっていたこと。

詐欺に遭い、貯金がほとんどなくなってしまうたこと。

それから気力が失せ、仕事が手につかなくなったこと。

すぐに誰も助けられなくなったこと。

「俺は所詮一発屋の人間だったんだ。世の中の目がたまたま一瞬俺に向いたただけだ。一度スター気取りで偉そうに話しかけたことがあったけど、あの時は悪かったな」

彼は床を見つめ、体を揺すって低い笑い声を出した。

薄汚れた肩からフケが舞った。顔は髪に隠れて見えなかった。

彼は茶色い食器が溜まった台所の方を見つめ

また話し始めた。視線は定まらず、間延びした口調で話す。

私に話しかけるようできて、自分に語りかけるようでもあった。

今は廃棄されるコンビニ弁当を頼って暮らしている。

「それだけじゃもちろん足りないんだ」

彼は口の端を吊り上げ、

「俺は元大食いチャンピオン、だからな」

と、つらそうに言った。

彼は水道代と家賃だけは残った貯金で払い続けていた。

弁当だけでは物足りない彼は、そこで水を飲むらしい。

水道にかじり付いて、肥大した胃がいつぱいになるまで水を飲む。

「満腹になってもまだ飲むんだよ。何でかっていうと、もしかしたら死ぬるかもしれないからだ。水にも致死量があつて、飲みすぎると死ぬ。自殺を実行する勇氣も行動力も残つてないが、出来たら死にたいと思つてるから、嫌になつても水を流し込むんだ。苦しくなくても飲み続ける。そのせいでコレが元に戻らなくなった」

彼は自身の膨張した腹を掴んで言った。手を離しても形はなかなか元に戻らない。

「でもな、不思議なことに、いくら水を飲んで苦しくなくても、まだ腹が減る気がするんだ。変な話だろ」

彼はどうしてもそれが納まらないとき、

部屋の片隅のダンボールに入った紙の束を読むそうだ。

中身は昔届いた、女性ファンからのファンレター。

男性からのものは全て捨てたらしい。

それを読むと、彼の不思議な空腹は収まる。

もはや、空腹と他の衝動の区別はつかなかった。

「ああ、話したらまた腹が減った気がする」

彼は蛇口の下に、口を限界まで開けて身を乗り出し、

水を喉の奥に落とし込み始めた。

上からの水を底なしに吸い込む彼の口は

排水溝を連想させた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6303p/>

空腹しか残らなかった男

2011年1月3日21時25分発行